

# 備後絣音頭 主役で登場

「多くの人が見る機会に」

福山市新市町の住民グループ「備後絣音頭をつなぐ会」が21日、町内の素盞鳴神社で初の主催イベントを開く。これまで市内外のイベントに参加して音頭を披露してきたが、自前で発表する場がなく、メインで見てもらう機会をつくろうと企画した。

イベントは午後5時にスタート。会員が特産の備後絣の着物姿で、絣を

織るしぐさなどを表現した音頭を披露する。地元の小中学生による三味線演奏、戸手高箏曲部などのステージもある。会場では新市手打ちそば同好会がそばを販売し、茶席も設ける。

会員23人が14日、同神社で成功を祈願し、音頭を奉納した。高橋哲夫実行委員長(73)は「ゲスト参加だと、呼ばれなかったりイベントがなくなったりする不安定さがあった。主催イベントを定着させ、多くの人に音頭を見てもらう機会にした」と意気込んだ。

境内で備後絣音頭を奉納するつなぐ会のメンバー



音頭は1952年に始まった。夏祭りや運動会で踊られてきたが、少子高齢化などで担い手が減り、有志が2010年につなぐ会を結成。町内の吉備津神社の祭りや府中市の備後国府まつりなどで披露し、継承と指導を担う「つなぎびと」の認定にも取り組む。高橋実行委員長 ☎090(3376)1403。